「全鍍連」 ２０２３年 １１月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員　水谷　美紀　(㈱美山理研工業　代表取締役会長)

「水栓バルブ発祥の地」

岐阜県メッキ工業組合で理事、全鍍連では、情報・国際委員をしております。私からは、我が地域、岐阜県山県市役所及び商工会が取り組んでいることについてご紹介をしたいと思います。

岐阜県山県市（旧岐阜県山県郡美山町）は、「水栓バルブ発祥の地」の看板が設置されています。何故「水栓バルブ発祥の地」というかというと、１９３３年に旧美山町で水栓バルブの製造がはじまったからです。実際に国内初かと言われるとそうではないようですが、岐阜県初は確かなようです。

水栓バルブの製造工程は、鋳造、鍛造、切削加工、研磨、めっきなど多岐にわたり、第二次世界大戦後の復興から高度経済成長期を迎え、水道の普及、住宅建設の増加によって飛躍的に拡大した水栓バルブ市場を背景に旧美山町で製造工程の分業化が進み、現在に至る地場産業の基盤を確立していきました。我が社も１９５８年にめっき工場として創業しております。現在も山県市には水栓バルブに関わる企業が約１００社集積し、県内一の集積地となっています。

こうした背景により、山県市役所では県内一の集積を誇る水栓バルブ産業を盛り立てようと、平成２９年度から３年間、「山県の水栓バルブ製造業リノベーション事業」として国の交付金を活用し、３つの事業を展開してくれました。

一つ目の事業「生産性向上」では、中小企業診断士から個々の企業の課題に対する改善施策が提案されました。我が社では、排水の再利用やＤＸに関する改善施策の提案を頂き、市の補助金を頂きながら設備投資等を行いました。

二つ目の事業「人材確保・定着」では、高校新卒などの人材を確保するため、工業系高校や地元高校の先生方に工場を見学して頂いたり、意見交換などをさせていただきました。

三つ目の事業「将来性の向上」では、展示会出展への支援や「水栓バルブ」のＰＲ冊子制作などが行われました。

この市役所の取り組みに呼応して、山県市商工会では「水栓バルブ委員会」を立ち上げ、人材の確保・育成のために岐阜県の工業高校の先生方を招いた工場見学や、水栓バルブ特定課題研究会として、昨年度はロボット導入勉強会や企業視察、梱包を主題とした技術研修などが行われました。このほかＳＤＧｓや脱炭素社会等環境規制に対応するための勉強会も開催されています。

このような活動は、企業単独で行うことは中々難しい部分もあり、とてもありがたく思っています。この活動の中心は息子たちの代に移っていますが、市役所や商工会の方々に感謝しつつ、水栓バルブを担う一員として地域の発展に貢献し、我が社も発展していけるよう私も鋭意努力しております。